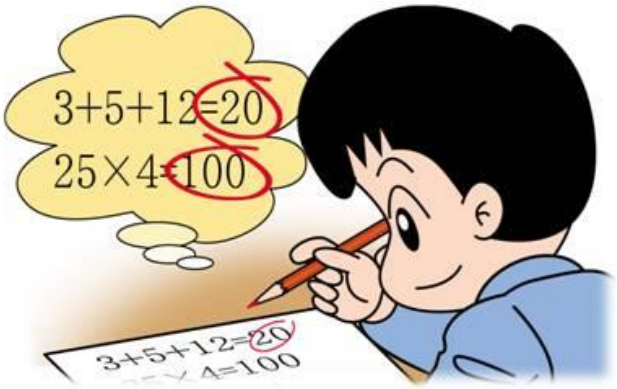
【要保存版】

「家庭学習のすすめ」

～家庭学習の習慣を身に付けるために～



真鶴町教育委員会

「家庭学習のすすめ」の発行にあたって

小・中学校の教育段階では、「知」・「徳」・「体」の内容をバランス良く身に付けさせ、「知」・「徳」・「体」の調和がとれた「生きる力」をはぐくむことが大切です。

「知」…　確かな学力　　「徳」…　豊かな心　　「体」…　健やかな体

そして、その際に、学校と家庭が中心となり、さらに地域も加わり、学校・家庭・地域が連携し、力を合わせていくことで子どもの確かな成長が実現します。

「知」の分野では、確かな学力の定着のために、学校での学習に加えて、復習などを中心とした家庭学習の習慣を身に付けることが大切であることが、今までの各種の学力調査等から明らかになっています。

そこで、真鶴町の教育環境の特長を生かして、小・中学校を通じ、家庭学習の習慣を身に付けさせ、学校の学習と併せて、確かな学力の定着を進めていきたいと考え、「家庭学習のすすめ」を発行することとなりました。

この冊子は、「小学校低学年」「小学校中学年」「小学校高学年」「中学校」ごとに、家庭学習についての「ポイント」や「具体例」を載せています。

また、「就学前」のページも設け、小学校以降の生活や学習の基盤の育成を図るために、家庭において意識していただきたいポイントをまとめました。

さらに、最終ページには、就学前から小学校、中学校までのすべての段階において共通して、「知」「徳」「体」の調和のとれた発育のために必要なことをまとめています。

保護者の皆様には、発行の趣旨をご理解いただき、お子さまの家庭学習の習慣化に向けて、この冊子を学習内容や方法を決めていただくための参考にしてください。

お子さま・各家庭に合った家庭学習を！

家庭での学習環境や子どもの発達のペースはそれぞれ少しずつ異なります。

そこで、この冊子を目安として、お子さまに合った家庭学習の内容や方法を見つけ、習慣化できるよう各家庭に合わせた取組をお願いいたします。

学校でも、家庭との連携を図りながら、宿題や予習・復習など家庭での学習課題を適切に課すなど家庭学習も視野に入れた指導を行います。

家庭学習の習慣化のために、家庭では次のことをぜひ！

- 子どもの学習に目を通し、やる気が出るような声かけや励ましを！
  …「言われなくても自分からできたね」「最後までがんばったね」「上手にできたね」「だんだんできるようになってきたね」…など
- 学習環境の整備を！
  …「時間を決める」「学習中はテレビを見ない」「決まった場所で」など

※特に、低・中学年における学習習慣の確立が、とても大事です。（最初が肝心！）

就学前の幼児は、様々な“遊び”を通して、いろいろなことを学びます。様々な“遊び”を通して、生き生きと心と身体を動かし、健やかに、毎日を積み重ねていくことが、成長と発達を促すことになります。そのように考えると、小・中学校の段階における「机に向かって取り組む家庭学習」のイメージとは異なるといえるでしょう。

◎生きる力の基礎となる心情・意欲・態度など、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うもの

具体的には……

＊健康

・部屋の中の「遊び」だけでなく、外に出て大いに「遊び」ましょう！

＊人間関係

・家族や隣近所の人たち（大人も子どもも）とのかかわり合いを進んでもちましょう！

＊環境

・自然や動植物、身近な物や遊具に触れ合う機会を積極的にもちましょう！

＊言葉

・親や家族からの「言葉かけ」を大事にし、親子の会話を増やしましょう！

・親子一緒に絵本を読んだり、読み聞かせをしたりする時間をもちましょう！

＊表現

・一緒に歌を歌ったり、絵をかいたり、何かをつくったりするなど様々な表現を楽しみましょう！

小学校入学前までに身に付けてほしいこと

Ⅰ　生活面で…

1　自分の身の回りのことは、自分でできる。
2　友達と仲良く遊ぶことができる。
3　子どもらしい自然な礼儀（あいさつなど）を身に付けている。
4　話を落ち着いて聴くことができる。
5　交通安全の知識と実践力を身に付けている。

Ⅱ　学習面で…

1　平仮名で書かれた自分の名前が読める。
2　左と右が分かる。
3　自分の名前、家族の名前が言える。

小学校１・２年生

〇月〇日（　）

１・２年生のポイント

- 基本的な生活習慣を身に付けることが大切な時期です
- 家の人のアドバイスや見守りで、自分のことは自分でできるようになってきます
- 褒めてもらうと、意欲が高まります

早寝早起きをする、しっかり朝ごはんを食べる、挨拶をきちんとするなど、基本的な生活習慣があってこそ、学習習慣が身に付きます。

自分の身の回りのことや頼まれたことを最後までやり遂げられる子は、学習でも粘り強くがんばれます。

家事、ペットの世話、学校の学習の準備など、子どもと一緒に楽しみながらやりましょう。
家の人の励ましや褒め言葉が学習習慣の定着につながります。

家庭学習の習慣を身につけよう！

学校生活から

- 話し言葉で学ぶことに、書き言葉（文字）で学ぶことが加わります。
- 体験したことを、友達にお話ししたり、文章に書いたりして、言葉の力を身につけさせます。
- 文章を何度も読んだり、計算練習を繰り返したり、学んだことを身につけるため、繰り返しの学習を行います。

このような家庭学習を！

学習時間のめやすは
１０分～２０分

- 教科書を繰り返し声に出して読みましょう。
- 正しい書き順で漢字や片仮名を書く練習をしましょう。鉛筆の持ち方や書き順を家の人に見てもらいましょう。
- 教科書の文章を正しく書き写しましょう。
- 絵日記を書きましょう。
- 家の人に読み聞かせをしてもらいましょう。
- 計算練習をしましょう。
- 生活の中で時計をよみましょう。
- 生活の中で数や量の感覚を遊びながら身に付けるようにしましょう。

小学校３・４年生

○月○日（　）

３・４年生のポイント

- 好奇心が旺盛になり、行動の範囲がふえてきます
- 集団で遊ぶことが中心となります
- 少しずつ反抗心も芽生え、自己主張することも多くなります

家に帰ってからの行動の計画や、家庭での約束事を、しっかりと話し合って決めましょう。

相手の気持ちを考えた言葉づかいや、挨拶をしっかりするなど、気持ちのよい集団生活を送ることが大切です。

反抗心や自己主張は自分に自信が生まれてきた表れです。興味や関心のあることにどんどん挑戦させ、その結果について、家庭内で感想を伝え合う場をつくりましょう。

宿題と自主的な学習をバランスよく！

学校生活から

- 社会や理科、総合的な学習の時間など、新しい学習が始まります。
- リコーダーや毛筆（習字）など教科の中でも、新しい学習が始まります。
- 国語辞典や漢字辞典、地図帳などの使い方を学び、自分で調べる活動が多くなります。
- 新しく学ぶ漢字も多くなります。（１年 80 字・２年 160 字・３年 200 字・４年 200 字）
- 算数では、小数や分数といった新しい数を学習します。また、計算も、わり算を学習し、整数と小数の四則計算に取り組みます。

このような家庭学習を！

学習時間のめやすは

３０分～４０分

- 毎日、教科書を声に出して読む習慣をつけましょう。物語では、会話文を大切にし、気持ちを込めて読みましょう。気に入った部分は暗唱できるようにしましょう。
- 宿題がないときは、国語や算数などの復習をするなど、課題を決めておきましょう。
- 計算練習は毎日少しずつ行いましょう。
- 漢字練習は毎日繰り返し書くようにして覚えましょう。
- わからない言葉は辞典を使って、自ら調べる習慣を身につけていきましょう。
- 週に１冊は本を読み、いろいろなことを知ったり、考えたりする時間も大切にしましょう。
- 習った漢字を使って日記を書き、その日の出来事をしっかりと振り返る習慣をつけましょう。

小学校５・６年生

○月○日（　）

５・６年生のポイント

- 友達との関係が深くなり、共に過ごす時間を大切にする時期です
- ゲームや携帯電話のやりすぎで家庭での時間のほとんどを費やしてしまうこともあります
- 塾などの習い事と、家庭学習との両立を考えることが大切です

自分を高められるような友達関係を築くことが大切になります。
子どもの話にしっかりと耳を傾け、大人としてのアドバイスをしてあげましょう。

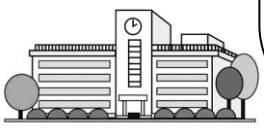
自分の立てた計画に沿った生活習慣を身につけることが大切です。家庭での約束をしっかりと決めておきましょう。

学習内容が難しくなる時期です。
理解したつもりでも身に付くには時間がかかります。
学習したことを振り返る、復習の時間をもつことが必要です。

自分の課題や興味を生かした家庭学習を！

学校生活から

- 委員会活動が始まります。リーダーとしての責任感や、自分たちで計画して活動する自主性が求められます。
- 学習では、友達に自分の考えを筋道立てて伝えることが大切になります。
- 授業では、メモをとりながら話を聞いたり、ノートに自分の考えを書き込んだりします。
- 分数のたし算、ひき算、かけ算、わり算の学習をします。
- 家庭科や外国語活動の学習が始まります。



このような家庭学習を！

学習時間のめやすは
５０分～６０分

- 語句や漢字の意味、新出漢字は辞書やドリルを使って確認しましょう。
- 教科書の文章をノートに書き写しましょう。
- 物語文や詩を声に出して読みましょう。また、暗唱して友達や家族に語れるようにしましょう。
- 計算練習に取り組みましょう。制限時間を設定して同じ問題に何度か取り組むと、自分の成長が見られます。
- 答え合わせは自分で行い、間違いの原因を確認しましょう。
- 自分が興味関心をもったことを調べましょう。
- その日の授業の様子を、ノート１ページにまとめなおしましょう。
- 習った漢字を使って、毎日、日記を書き、自分の振り返りをしましょう。

中学校１年生

学習時間のめやすは
最低７０分

１年生のポイント

授業で習ったことをその日のうちに復習し、これから習うことについて予習しよう。

- 教科ごとに先生が替わる、いわゆる教科担任制になります。
- 部活動なども始まり生活リズムが大きく変わります。
- 学習内容も小学校に比べて深まり、量も多くなります。
- 定期テストがあります。テストの直前の学習だけでなく、日ごろの積み重ねが大切です。

生活リズムの中に家庭学習を！
習慣化が大切。机に向かう習慣、本を開く習慣、書く習慣を身に付けよう。気持ちや心構えをもつことが大事。

家庭学習の方法を工夫しよう！
疑問に思ったことは辞書や資料集を使って自分で調べよう。

中学校２年生

学習時間のめやすは
最低８０分

２年生のポイント

授業で習ったことや興味があることについて自分で調べたり確かめたりしよう。
基礎基本を確実に身につけよう。

- 宿題が出る出ないにかかわらず、自分で計画的に学習を進める必要があります。
- 「思春期」を迎え、心と体の成長がアンバランスになりがちで、ちょっとしたことで不安・悩みを抱えやすくなります。
- 自我が芽生え、親や、周囲のものに反抗的になったり、仲間や友達の影響を強く受けたりします。
- 中だるみの２年生といわれます。気持ちを引き締めて生活しましょう。

わからないときは早めに解決しよう！
先生や友達に相談して、しっかり理解しよう。

日ごろの積み重ねが力になる！
特に国・数・英は授業があった日に必ず復習しよう。

中学校３年生

学習時間のめやすは
最低９０分

３年生のポイント

将来を見据えた目標をもち、努力しよう。
知りたい、分かりたい、できるようになりたいという気持ちをしっかりもち、粘り強く学習しよう。<u>何よりも気持ちが大事！</u>

- 自分の進路を選択する時期となり節目の時です。気持ちが不安定になったり、焦ったり、いらだったりしがちです。
- 本人だけでなく家族も不安定になりがちです。保護者の不安が子どもに影響を及ぼすこともあります。本人も家族も正しい進路情報を得ましょう。
- 将来を見据えた具体的な目標をもつことが、意欲の向上・学習への集中につながります。
- 学校では行事や部活動において中心的な立場となります。時間の使い方を工夫し、けじめを付けて学習との両立をはかりましょう。

年間スケジュールを考えよう！
学習計画を立て
今すべきことを
把握しよう。

長期の休みをうまく利用しよう！
夏・冬休みは継続的に学習できる絶好の機会、計画的に！

保護者の方へ

将来の希望等について、話し合いの時間をもちましょう。
大切なことは、声かけし、分からないところや悩みを認めてあげて、一緒に考え、頑張ったこと、継続できたことは、たくさん誉めてあげることです。

中学校：具体的な各教科の取り組み

国語科

- 大切なのは、読むことに慣れることです。読書を日々の習慣にすること、新聞を読む習慣をつけるのも良いでしょう。その中で分からない言葉や漢字が出てきたら、その都度辞書等で調べてみることで、言語の力もついてきます。また、覚えた漢字や語句をできるだけ使って、30字前後の日記などをつけると書く力も向上します。
- 毎日の授業の中でノートをとったりワークシートに書き込んだりしたことは、その日のうちに見直し、整理しておくと、復習の時に役立ちます。

社会科

- 教科書の、次の日に学習する部分を前もって読んだり、その内容について調べたりするとよいです。時間は10分程度でもよいので、少ない時間でもこつこつと学習していくことが大切です。
- 特に苦手意識をもっている人は、その日のうちに、教科書と資料集等を使って見直しましょう。
- 新聞やテレビ・ラジオやインターネットなどでニュースを見聞して、世界の動き、日本の様子を知り、社会的視野を広げましょう。

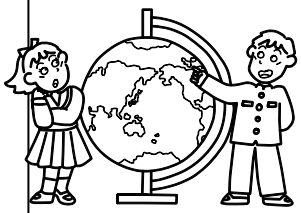
英語科

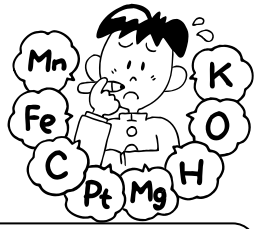
復習が大切です。その日に習ったことは、その日のうちに。こつこつと学習していきましょう。

- 教科書に出てきた単語を繰り返し書いて覚えましょう。1回ごと発音しながら書きましょう。
- 教科書の文章を何回も音読しましょう。音読をたくさんすることは「英語を聴く力」「英語を書く力」につながります。
- 授業で使っているワークはよくまとまっているので有効に使いましょう。
- 場面に応じた読み取り、英作文が求められます。ノートにたくさん練習しましょう。

数学科

- 正負の数や文字式・方程式などの計算問題が基本となります。正確に解けるようになると、どんな問題に対しても自信と余裕が生まれ、ものごとを論理立てて考えることができるようになります。それが数学的な発想へとつながります。そのためには家庭でもきちんと学習をすすめるが大切です。まずは、授業でノートを家庭学習での参考書となるように余白を十分にとって見やすく仕上げる工夫をしてみましょう。
- 家庭学習では、授業で取り組んだ問題にもう一度取り組み、必ず答え合わせをしましょう（家族に協力してもらってもＯＫ）。そして、授業の進みに合わせて、問題集に取り組み、必ず答え合わせをしましょう（家族に協力してもらってもＯＫ）。
- １回の授業は、だいたい問題集１～２ページ分くらい進みます。間違えてしまったところ、分からないところは、すぐにノートで確認しましょう。（もちろん翌日に先生に質問するのもＯＫ）。
- 特に、数学は積み重ねが大切な教科です。その日のうちに課題をきちんと克服するよう努めましょう。





理科

理科では思考力、表現力なども大切ですが、その土台となるのは、理科の用語や実験・観察などにかかわる基本的な知識です。家庭でやってほしいことは次の二つです。

- 毎日の授業の復習、宿題プリントなどをしっかり行い、土台となる基本的な知識を確実に身につけること。
- 日常生活の中でいろいろなものに関心をもち、どうしてこうなるのかな、どういうしくみになっているのかなと疑問をもって、調べてみようと努力すること。理科の先生に質問してみるのもおすすめです。

音楽科

耳を鍛えよう！

・ ジャンルが偏らないよう、クラシック音楽、吹奏楽、ポップスなどの曲を聞きましょう。
　気に入った曲を口ずさむ
　実際に楽譜を見てみる
　作曲者について調べる
　曲ができた歴史、背景などを調べてみる
・ 雨、風、川のせせらぎなど、自然の美しい音に耳を傾けてみましょう。
・ 町音楽祭や演奏会に足を運んで、生演奏など良い演奏を聞きましょう。

※ ポータブルな音楽機器で音楽を大音量で聴くと、難聴のもとです。気をつけましょう。
※ 貴船祭りの太鼓や笛は、とてもよい楽器経験になるので、積極的にチャレンジしてみましょう。

技術・家庭

進んで手伝いをしよう！

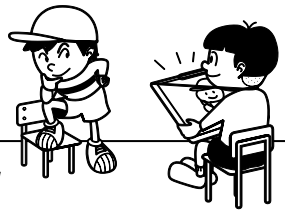
技術・家庭科では、教科書などの本を読んで、知識を得ることも大切ですが、学習のチャンスは、日常生活の中にたくさんあります。「日常生活＝技術・家庭科」です。

・ 何にでも興味をもちましょう。
　「何からできているのだろう？」「どうやって作るのかなあ？」など普段の生活のちょっとした疑問をそのままにせずに、周りの人に聞いたり、調べたり、挑戦（実践）したりしてみましょう。

・ ニュースや新聞記事に関心をもちましょう。
　世の中の動向を知ることも、大切です。自分の生活に役立ちそうな情報が、あふれているはずです。多くの情報の中から、自分に必要な情報を選び、活用していきましょう。

・ 家の手伝いをしましょう。
　家族に任せきりではなく、自分のことは自分で行う。与えられた仕事だけではなく、家族の一員として何事にも積極的に取り組んでいきましょう。

美術科



まねから学ぼう！

特に発想や表現につまずく人が多いので、取り組む題材の資料になるもの（写真や作品のアイデアや表現されている手本になるようなもの）を集めましょう。
　そのために…

・ その時々に取り組んでいる題材に関して身近にあるものに目を向けましょう。
例　レタリング　新聞や広告や雑誌の字体
　　人物画　　描かれたもの・人物の写真など

・ その時々に制作している題材に関して参考になる資料がないか身近にあるものに目を向けましょう。
例　木彫手鏡　　日本の伝統的な模様
　　浮き彫りしてある木製品
　　デザイン画　　制作に必要な図や写真
・ その時々に取り組んでいる題材に関して実技の練習をしてみましょう。
例　人物画　　人物のスケッチや人物作品を模写してみましょう
　　デザイン　色鉛筆の重ね塗りで、色の深さをつくる練習をしてみましょう

保健体育科

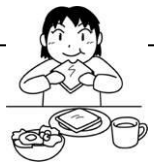
スポーツに親しもう！

体格や体力・運動能力が急速に発達するこの時期に、いろいろなスポーツに親しみ、生涯にわたってスポーツを楽しむ力や態度を身に付けることは、健康で活力に満ちた生活を送るうえでとても大切なことです。

・ 食事・運動・睡眠のバランスを考えた生活習慣を整えましょう。
・ スポーツ文化に触れ、テレビ等でスポーツ観戦をしましょう。「オリンピック、ワールドカップ、プロ野球、Ｊリーグ等」
・ 体力測定の結果から自分の体力の状況を確認し、体力づくりに取り組みましょう。少しきついと感じる運動を週３～５日程度行いましょう。「ジョギング 30 分週３日、毎日風呂上がりにストレッチ 10 分」等
・ 各単元の特性や歴史、ルールやキーワード等を確認しましょう。「どのように生まれたのか」「取り組むことでどのような楽しさがあるのか」等を知ることが大切です。

「知」「徳」「体」の調和のとれた発育に向けて

①生活習慣の必要性



・早寝早起き朝ごはん

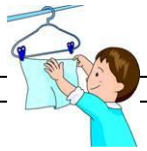
これをきちんとやっている子ほど勉強も運動もよくできるというデータがあります。
（「全国学力・学習状況調査」「体力・運動能力調査」より）

・家族一緒の食事

家族のふれあい、食事のマナーなど社会性を深めることにもつながります。できるだけ家族そろっての食事を習慣にしましょう。

・家事への参加

「自分のことは自分で」を目標に、子どもの成長に応じて役割分担をしましょう。責任感と自立感を育てる中で、自信をもたせることにもつながります。



②読書のすすめと読書習慣の確立

・まずは読み聞かせ

家庭の中で本を読む時間をつくり、特に幼児期・低学年の時期には親子のふれあいの中で本と親しむ機会をつくりましょう。本好きな子ほど感性が豊かになり、読解力や想像力、思いやりの心が身に付きます。

・本がすぐある環境

家の中で手の届くところにすぐ本がある環境をつくりましょう。子どもたちの成長に応じて、興味や関心を引き出せるような本（絵本、物語、図鑑など）にふれさせたいですね。

③自尊感情を育てることの大切さ

※「自尊感情」とは…
「自分が好きで、自分を大切にする感情」
「自分の存在を自分で受け入れようとする考えや態度」をさします。
自分を肯定的にとらえるということは、人生の様々な困難を乗り越えて充実した人生を送るためだけでなく、他人と協調していくためにも必要なことだといえます。

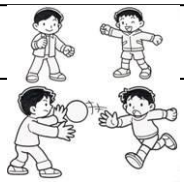
・自分を大切にする心

子どもの良いところを見いだし、ほめましょう。叱るべきときは叱り、ほめるべきときはちゃんとほめる。一つ叱ったら三つほめるぐらいのバランスを心がけましょう。

・自分で考え自分で行動

子どもの進む先の障害物を先回りしてどけたり（過保護）、子どもの一歩一歩について指示をしたり（過干渉）するのではなく、子どもが好きなものを見つけるまで待ち、できるだけ子どもの力を信頼し、それを見守り、力づけましょう。

④遊びや体験の重視



・子どもは遊びが仕事

子どもは、遊びを通して感覚を働かせ、運動をし、ものをつくり、想像します。特に、外遊びやスポーツ活動は、基礎的な体力や運動能力の習得につながります。親子のふれあいや仲間との交流を深めながら、身体を動かす楽しさや喜びを体感させ、運動・スポーツに主体的に取り組む態度を育てましょう。

・体験活動のすすめ

生活体験、社会体験、自然体験などさまざまな体験活動を通じて、思いやりの心や規範意識がはぐくまれます。また、社会性や豊かな人間性、基礎的な体力や心身の健康、論理的思考の基礎を形成することにもなります。子どもにはさまざまな体験活動をすすめましょう。

・地域の行事への参加

地域の行事から、真鶴町の伝統文化を学び、先人の知恵を受け継ぎましょう。

家庭学習の足跡

学年が終わる頃に自分の姿を振り返ってみましょう。

学　年	家庭学習の習慣がつきましたか。		
小学校１年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
ふりかえり：			
小学校２年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
ふりかえり：			
小学校３年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
ふり返り：			
小学校４年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
ふり返り：			
小学校５年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
振り返り：			
小学校６年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
振り返り：			
中学校１年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
振り返り：			
中学校２年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
振り返り：			
中学校３年	ついてきた	できないときがあった	まだついていない
振り返り：			

家庭学習のすすめ

～家庭学習の習慣をつけるために～

発　行　　平成 22 年 4 月（平成 26 年 4 月一部改訂）
真鶴町教育委員会教育課
〒259－0202
足柄下郡真鶴町岩 172－8
TEL　０４６５－６８－１１３１